

六甲山におけるキノコ出現頻度の変化

濱本楓・大隅音彩・川野雅孝・嘉住成羽・渡部史隆・小川あみ
・池加美篤実・黄喜悦（兵庫県立御影高等学校 環境科学部）

1. はじめに

私たち環境科学部（通称キノコ部）は3月から11月の毎月第3日曜日に兵庫キノコ研究会様と共に、六甲山の再度公園にて、定点観察会を行っている。今年度の定点観察会を通して、部内では「出現するキノコの種類数が減ってきており、それは、気温や降水量が関係しているのではないか」という意見が出た。そこで、出現したキノコの種類数の変化と、気温や降水量との関わりを明らかにしようと考えた。

2. 方法

2001年～2025年までの定点観察会で出現したキノコの種類についてのデータと、気象庁が発表している気温と降水量のデータを使用した。各年7、8、9月における出現したキノコの総種類数と、気温と降水量をグラフにまとめた。

3. 結果

2001年～2025年にかけてキノコ総種類数の単調な減少傾向は見られず、降水量と、キノコの種類数には大きな関係性が見つからなかった。1年の中で高温の日が続く8月は他の月と比べて、見られる種類数が少なかった。



4. 考察

定点観察会に参加した際は、キノコの種類数が減っているように感じたが、長期のデータを分析すると、著しく減少しているわけでないことが分かった。7月は2001年から徐々に種類が増加していたが、ここ最近ではあまり見られていなかったことにより、種類数減少の感覚を引き起こされたと考えられる。8月は7月や9月に比べて全体的に取れるキノコの種類数が少なかったが、8月は気温が高く、キノコが生えるのに適した気温を上回ったと考えられる。同時に、気温がキノコの発生に影響する可能性も示唆された。結果では降水量と種類数の関係は見られなかったが、データにおける降水量は年ごとの月平均降水量であり、採集を行ったのは月に一度であるため、採集日の降水量が考慮されていないことが、この結果につながったとも考えられる。